

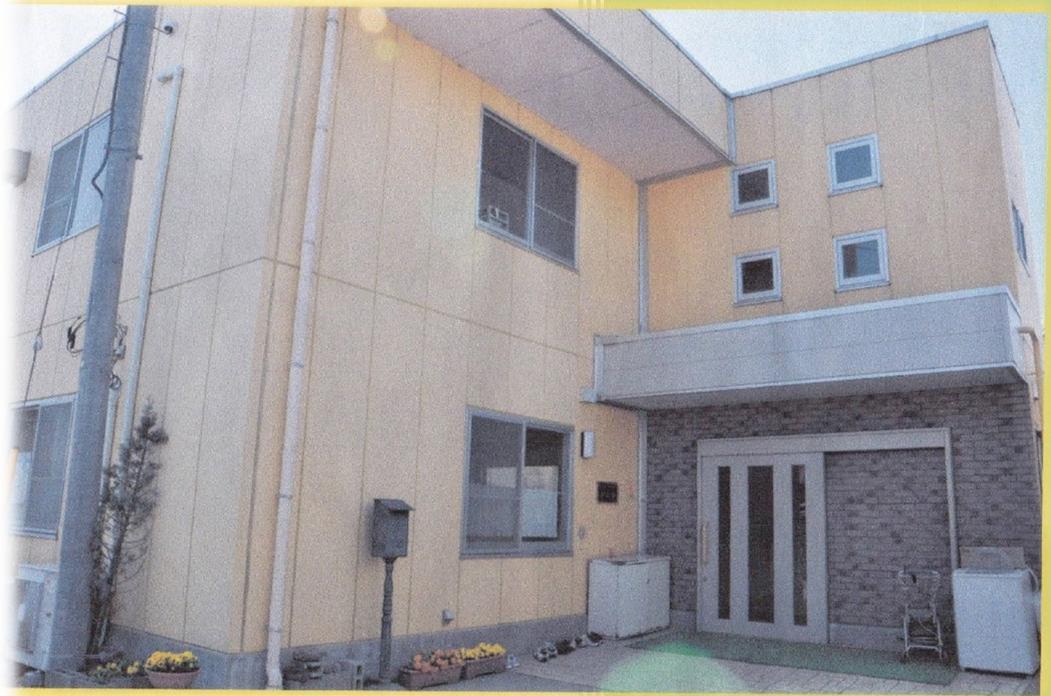
茅工房

MARIKO寮

くがわ支援センター

開所 15 周年

社会福祉法人 あそびじゅく



生活介護事業所 茅工房

グループホーム MARIKO寮

居宅介護・行動援護・地域生活支援事業

くがわ支援センター

相談支援事業所 組木

活動の記録





15周年を迎えて

社会福祉法人あそびじゅく 理事長 中村里枝

あそびじゅくは、善光寺山の真夏のセミの鳴き声と若者たちの笑い声に包まれた金尾会館のプール遊びが原点となっています。

法人の成り立ちは、ハンデのあるなしに関わらず地域の中で子供たちが伸び伸びと生活できることを目指して、学童保育・統合キャンプ・表現活動合宿等を行いながら、学生たちと共に活動してきた親たちが活動拠点を作ろうと現在地に1993年に学童保育所を開所。「あるがままに自然のままに」を理念として、子供たちが地域住民の一人として受け入れられ、それが自然なこととして広がっていくことを期待してスタートしました。その後、福祉作業所茅工房開所、2002年に社会福祉法人として認可されました。学生や親、関わった人たちの若かりし頃の情熱に感謝をこめて原点である「あそびじゅく」を法人名にしました。

茅工房の15年、MARIKO寮の15年、くがわ支援センターの15年と、それぞれの活動が確実に丁寧に行えたのは、利用している方々と家族の力強いサポートや関係者の皆様のお力添えのおかげだと思っています。

そして何より、施設は職員のスキルで決まるといわれています。茅工房が良い評価を頂けているのは職員一人一人が研修を重ねてスキルを上げながら毎日頑張ってくれている結果だと本当に感謝しています。甲府市も、中核都市となります。障害福祉サービスにどう影響するのかまだ見えてきませんが、ハンデをもつ方々の意思決定支援や強度行動障害を持つ方々の支援手順書に基づく支援が始まっており、更なる支援や記録の丁寧さが求められ職員の負担が増してきておりますが、職員たちの頼もしい活躍に頼りつつ頑張りたいと思っています。

これからの、私たち法人の仕事は、利用する方々や家族のニーズを現状と併せながら形にしていくことだと思っています。大きくなくていい、地域の中で便利で安心して生活できる居場所をつくっていきたいと思います。

この15年、法人の立ち上げ時期からご苦勞頂いている役員の皆様、ましてや何の縁もなかったのに大役を引き受けていただき法人の形を基礎からご指導いただいた監事の方には心より感謝申し上げます。

今後も、施設を利用される方やご家族、職員、行政機関、地域の方々、役員の皆様のお力を借り、問題を解決しながら、20周年を目指して次の世代にバトンが渡せるように歩みを進めていきたいと思っています。

多くのご支援をいただきありがとうございます。これからも宜しく願い致します。

余談ですが

～自分らしく ありのままに～を法人の理念に掲げて努力をしてきましたが、先日、雑誌を読んでいると「ありのままに生きるとは、そのままがいいということではない、それはただのずぼらにしか過ぎない！自分なりにいろいろな努力を精一杯した結果がありのままの自分なのだ！」

私たちの提供する ～自分らしくありのままに～ の言葉の重みを改めて実感しました。



法人の概要

平成14年8月	社会福祉法人あそびじゅく 法人認可
平成15年4月	小規模通所授産施設茅工房新築 開所
平成15年6月	居宅介護事業所くがわ支援センター 認可
平成16年2月	グループホームMARIKO寮 認可
平成16年4月	小規模教産施設 開所
平成18年10月	共同生活介護施設MARIKO寮 開所
平成19年7月	生活介護施設茅工房へ移行 認可
平成19年7月	茅工房増築工事
平成21年12月	MARIKO寮施設整備のため土地購入
平成24年4月	MARIKO寮 開所
平成25年2月	相談支援事業所組木 認可
平成26年4月	MARIKO寮 包括型のグループホームへと移行



法人役員を紹介

当法人の役員の方々は、無報酬で役員会に出席していただいています。下記に記載した事項の許認可への協力や各年度の役員会に出席して法人の適性運営に協力して頂いています。

監事の皆様には役員会へ出席して議案の討議や毎年度末の決算の監査等を実施して運営や役員会の在り方のご指導をいただいています。

平成14年8月「社会福祉法人あそびじゅく」として認可され、設立時の役員は理事10名・監事2名・評議員21名。

1. 法人の設立 平成14年8月
2. 施設建設 平成14年8月
3. 小規模通所授産施設茅工房開所 平成15年4月
4. くがわ支援センター開所 平成15年6月
5. GH・鞠子開所 平成16年2月

[設立時の役員]

役員	お名前
理事長	中村里枝
理事	丸山美智子
理事	丹沢雅彦
理事	戸川恵美子
理事	望月大和
理事	鈴木彦人
理事	井上勝六
理事	秋山晟子
理事	谷田正人
理事	雨宮文江

監事	小倉恵一
監事	三上まゆり

評議員	小山隆夫
評議員	小野登
評議員	柳澤暢幸

評議員	内藤長臣
評議員	山田なほみ
評議員	志村昭
評議員	上嶋准嗣
評議員	志村富子
評議員	秋山洋
評議員	三枝利仁
評議員	木田恵美子
評議員	村井つかさ
評議員	川本貢
評議員	梅本実
評議員	中田芳晴
評議員	坂本静江
評議員	成沢秀仁
評議員	大柴佳清
評議員	成島洋子
評議員	中村俊洋
評議員	小倉洋子

平成16年の法人改革で理事6名・監事2名・評議員13名。

1. 共同生活介護MARIKO寮開所（自立支援法による変更）
平成18年10月
2. 生活介護茅工房へ変更認可
平成19年7月
3. 茅工房増築工事
平成19年7月
4. 平成21年MARIKO寮施設整備計画。甲府市下飯田1-11-6の
土地購入
平成21年12月
5. MARIKO寮建設
平成23年8月竣工
6. MARIKO寮開所
平成24年4月
7. 相談支援事業所組木開所
平成25年2月

[自立支援法への法律改正時の役員]

役員	お名前
理事長	中村里枝
理事	井上勝六
理事	望月大和

理事	谷田正人
理事	雨宮文江
理事	山之内一江

監事	小倉恵一
監事	丸山美智子

評議員	小山隆夫
評議員	末木泰子
評議員	中村洋人
評議員	中村俊洋
評議員	篠原ひろ子
評議員	志村昭
評議員	中田芳晴
評議員	成島洋子
評議員	上嶋准嗣
評議員	沖田幸
評議員	三枝利仁
評議員	上嶋初江
評議員	田中たもつ

平成29年の4月の法人改革により理事6名・監事2名・評議員4名。

1. 評議員選任・解任委員会設置 平成29年4月

[現在の役員]

役員	お名前
理事長	中村里枝
理事	井上勝六
理事	望月大和
理事	谷田正人
理事	雨宮文江
理事	山之内一江

監事	小倉恵一
監事	丸山美智子

評議員	上嶋准嗣
評議員	山本久美子
評議員	篠原ひろ子
評議員	沖田幸

評議員選任・解任委員会	沖田 正
評議員選任・解任委員会	三枝利仁
評議員選任・解任委員会	清水真理子
評議員選任・解任委員会	笠井高文

*平成32年より法人改革の、みなし期間が終了し現在の理事・監事数は変わらずに評議員のみ3名増員で7名になります。

茅工房 15周年

茅工房サービス管理責任者 中村洋人

茅工房は、平成15年4月1日に開所して障害福祉サービスを提供している施設です。親たちの手で、支援学校卒業後の受け皿として、平成4年福祉作業所としてスタートしました。

平成15年に社会福祉法人を設立、小規模授産施設として再スタート、生産活動の中で作成してきたクリスマス・お雛様・お正月飾り等は茅工房ブランドの季節商品として商品化して販売しています。動作の活発な方は職員やボランティアと協力して畑で季節野菜を育て、協力者のお店や病院で販売し、授産施設の工賃を確保していましたが、毎月の工賃を生み出すことの難しさが常に課題となっていました。

福祉制度改革で平成18年10月に生活介護の事業所に移行となり、法人内の事業所の「MARIKO寮」居宅事業所「くがわ支援センター」と協力しながら生活介護施設の活動が始まりました。季節商品は製作活動として位置づけ、農園作業活動はそのまま継続してイベントで販売するなど、積極的に社会参加の機会を増やす取り組みとして行っています。音楽リトミック・リハビリ・外出・夏はプールなど定期的に行うことで心身の発達に安定した成果を上げています。

平成29年度に意思決定支援が制度化されたのを機に、自分の意志を伝えることが不得手な方が多く利用されている茅工房では、意思決定支援チームと強度行動障害支援チームを立ち上げて対応しています。職員全員が強度行動障害支援者養成研修を受講してスキルアップし、生活のあらゆる場面での選択を丁寧に行い、意思決定支援を継続的に行うことで意思が伝わる成功体験を積み重ね、伝える意欲を育てています。

現在、施設を利用されている方や家族には、将来の親亡き後、地域の中でどう生活していくのかが大きな問題になっています。グループホームや短期入所の施設等を希望している方が多く、相談支援事業所と連携して調整していますが、空き情報はほとんどなく受け皿としての支援先が大きな課題となっています。今後、茅工房も法人に働きかけながら課題を解決していくと同時に、施設を利用する方々が希望する、当たり前前の日常生活に手が届く環境を整えて、スタッフが知恵を絞り支援する知恵の輪集団でありたいと思っています。これからも、施設を利用する人や関わる方たちが地域の中で必要とされ、安心な生活が送れるよう支援していきたいと考えています。

MAR I K O寮15周年

MAR I K O寮管理者 中村俊洋

まりこ寮の名前の由来を、知らない方々が多くなってきたのでここに紹介したいと思います。平成16年2月に開所して利用者3人でスタートして今年で15年になります。

評議委員会に「保護者が週に1度でもよいので子供を預けたいと、希望がありグループホームを計画したい」旨の発言をすると当法人の元評議員の小山氏が「自宅前の雑貨屋さんが空き家になっているので格安で借りられるように交渉するね」との助言からグループホームはスタートしました。

平成16年の2月に認可され週に3日程開所していましたが、6月には正式開所となりました。借りた商店の名前が「鞠子商店」だったので地域の縁を大切に育てる意味を込めて「鞠子寮」となりました。

平成21年12月MAR I K O寮施設整備の為土地を購入。

平成23年8月施設整備資金補助金決定建築竣工。

平成24年4月MAR I K O寮として現在地に開所。

施設整備を行う中で、一番大きい出来事は、平成23年3月11日、東日本大震災です。多くの方が犠牲になった記憶は忘れることが出来ません。

この年に、MAR I K O寮施設整備の内示が出ていましたが、予算は震災復興費が優先されるだろう、施設整備費は見送りになるか、先送りになるかと思っていましたが、遅れて決定通知が届き何となく複雑な気持ちを持ちながらも安堵しました。定員6名で新たに開所して現在に至っています。

認定区分の高いいわゆる重度と言われる利用する方が多いグループホームですが、外出、休日の支援に、くがわ支援センターの行動援護を利用したり、毎日日中帯の施設からの応援で入浴などの人手を確保しています。

又、家族会の方々には、職員の手回らないところを年2回大掃除していただいたり、連休などの休日の多い時など閉所にして職員の休みを確保する等のご協力をいただいております。ありがとうございます。

今後の課題は、休みなく稼働出来ることと体調の悪いときの対応の問題です、改善を重ねながら取り組んでいきたいと思っています。

くがわ支援センター15周年

くがわ支援センター代表 柳沢祐大

くがわ支援センターは平成15年6月に居宅介護事業所として開所しました。茅工房が小規模通所授産施設のころです。通所後の夕方帯や休日の生活の幅が少しでも広がるように支援してきました。

1980年の国際障害者年から少しずつ国の施策が変わりつつありましたが、まだ、措置の時代でもありました。約3年後に、自立支援法が始まりましたが、当時は何をするにも手探りの時期でもありました。特に居宅介護は待ったなしで必要とされており、中でも自閉的傾向にある利用される方が社会参加をしていくのに必要とされる事業であると思っていました。

あれから、15年が経ち居宅事業も利用される方の生活の一部となり、買い物や社会参加の機会を支えています。

現在は、居宅介護・重度訪問・移動支援・行動援護等を行っていますが、特に行動援護の事業所として良い評価をいただいています。開所当時の便利に利用でき、いつでも利用する方のサポートをする事業所でありたいという思いは実現できない結果となっています。利用希望の多さでいつでも満杯状態、で緊急の支援があると別の方に待っていただく状態です。職員の共通理解やスキルを上げるためにもこれからの課題として考えていかなければなりません。今後、利用される方のニーズ答えていけるように、個々の支援を検証しながら改善を重ねていきたいと思っています。

(H27年迄サービス提供責任者雨宮文江記録参照)



『僕ら友達』

作詞・作曲：前田 貢二

1. 君と僕のちがうところ それは肌の色
そして目と髪の毛と心の色
だけど君にも僕にも赤い血が流れている
そうさ君も僕も同じ人間

2. 君と僕の違うところ それは話しかた
僕は口で話すけど 君は手で話す
だけど君にも僕にも心があつて
喜び悲しみ 感じているね

3. 君と僕の違うところ それは歩きかた
僕は足で歩くけど 君は車椅子
だけど君にも僕にも小さな胸が
はちきれそうな 夢があるね

だけど君にも僕にも 出来ないことがある
だからみんなでやろうよ
僕ら友達同士
そうさ僕ら友達

『この歌を歌い続けて』

作曲：小田切 一博 作詞：今村 多美恵

1. シャボン玉を 空に飛ばした
キラキラ光って 夕日に消えた
やりたいことが いっぱいあるのに
なにかひとつが みつからないよ
君の夢と 僕の夢は ちがうけど
君の明日と 僕の明日も違うけど
そんな君とこの手を つなぎたい
そんな君の肩を 抱きしめたい
そんな君の心を 支えたい
それが僕の 明日だから

2. いつもの歌を ローズさんだ
ジンジン感じて 涙が止まらない
やりたい事を いつもしてるのに
なにかひとつが もの足りないよ
君の歌と 僕の歌は ちがうけど
君の道と 僕の道も ちがうけど
そんな君と この手をつなぎたい
そんな君の肩を 抱きしめたい
そんな君の心を 支えたい
それが僕の 道だから

そんな君と この手をつなぎたい
そんな君の肩を 抱きしめたい
そんな君の心を 支えたい
それが僕の 明日だから
それが僕の 明日だから

『パプリカ』

<NHK> 2020年応援ソング

曲がりくねり はしゃいだ道 青葉の森で駆け回る
遊びまわり 日差しの街 誰かが呼んでいる

夏が来る 影が立つ あなたに会いたい
見つけたのはいちばん星
明日も晴れるかな

パプリカ 花が咲いたら 晴れた空に種を蒔こう
ハレルヤ 夢を描いたなら 心遊ばせあなたにとどけ

雨に燻り 月は陰り 木陰で泣いてたのは誰
一人一人 慰めるように 誰かが呼んでいる

喜びを数えたら あなたでいっぱい
帰り道を照らしたのは 思い出のかげぼうし

パプリカ 花が咲いたら 晴れた空に種を蒔こう
ハレルヤ 夢を描いたなら 心遊ばせあなたにとどけ

※会いに行くよ 並木を抜けて 歌を歌って
手にはいっぱいの 花を抱えて らるらりら
(※繰り返し)

パプリカ 花が咲いたら 晴れた空に種を蒔こう
ハレルヤ 夢を描いたなら
心遊ばせあなたにとどけ
かかと弾ませこの指とまれ



A班



B班



C班







あそびじゅくのなかまたち



